

雨の日って どんな臭い

—オーストラリアの
テレビ・ラジオの
プレーブック紹介



小澤誉子

庭先には、アーモンドの白い花、黄色の毛糸のポンポンのようなワトルの花があふれています。広々とした公園にあるのは、縁の芝生だけ。コンクリートの動物も、大人の考えた子どものための遊び道具などは、ひとつもありません。

自然は、自然のままにあるのが一番。これがオーストラリアンの信念です。この信念は、子どもを見守る大人の眼にも現われています。子どものもらしさを大切に、子どもを傷つきやすいまっ白な心を、できる限りやさしく、はぐくんでゆきたいと願います。こんなオーストラリアンの姿勢が見られるプレーブックを、ここに紹介したいと思います。

それは、オーストラリア放送協会（ABC）が出版している「The Useful Book 役に立つ本」と実に、ストリートなネーミングの本で、入園前の子ども、及び、園児のための歌と遊びのアイデアが、いっぱいのもっています。

す。この本を作るにあたっては、小児病院のスタッフ、幼児発達の専門家、母親グループ、及び、子どもに関わりを持っている人々の意見を十分に取り入れるため、何度となくミーティングが持たれ、長い時間をかけ、完成されました。もちろん、子ども自身の意見も反映されています。片寄りのない本、オーストラリアに住んでいるいろいろな異なった文化を持つ子どもたちすべてが楽しめる本、それが企画スタッフのねらいです。この本にのっている歌や遊びは、ABC局のラジオ、テレビの子ども番組で応用され、それを聞きながら、一緒に遊ぶことが望まれます。

ABCの教育担当のスタッフは、その道二十年の大ベテランで、子ども向け番組担当になってから、結婚、出産、育児を経験し、子どもの成長をすぐ横で見ながら、自分の体験も番組作りに役立てて来たのです。すでに子どもは成長し、「後は孫だけ」と微笑む顔には、自分の担当した番組への、自信と誇りが感じられました。例えばコンピュータが生活の中で当たり前になっても、宇宙に飛

び出せるようになって、人間が、子ども時代に経験したいこと、それは変わらないというのが、番組作りのポリシーです。ですから、三年前の番組の再放送などは当り前。日本ではとても考えられないことです。「子どもが変わるから問題ない」という考え方に、オーストラリアらしさを感じてしまいます。前置きが長くなりましたが、本の内容をご紹介します。

歌や遊びは、子どもの日常生活に密着しています。朝起きてから、ベッドにはいつて眠るまで、子どもがその日体験しそうなものに結びついています。例えば「夜」ベッドへ、という見出しで、こんな歌がのっています。

小さな坊や

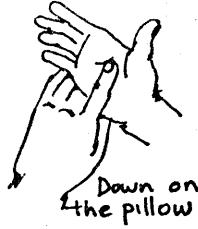
小さな坊や　もうおねむ

マクラの上に頭をのせて

しっかり毛布で体を包んで

さあ　そうやってぐっすりお休み

朝になったよ　目を開けて



毛布をけとばせは
ね起きろ

洋服着たら でき上

がり

一日 遊ぶ準備は完

了

(この歌には指遊びがついています)

さて、各ページには、

大人へのちょっとしたア

ドバイスがされています。

ここでは、『時々、

子どもは、眠るのをこわ

がります。ひとりぼっち

にされるのが不安だった

り、暗闇がこわくなった

り…。例えそれらが何に

も危害を加えないことを

子どもたち自身わかっていたとしても、こわいものなのです。

解決方法

●子どもが落ち着くまで、そばにいて、お話をしたり、歌を歌ったりする。

●子ども部屋のドアを開けて、家族が動く音、テレビ、

ラジオの音が、小さく聞こえるようにする。

●ナイト・ライトを付ける。

●子どものお気に入りのおもちゃを持たせる。

●夜のお友達を作る。例えば、月、星、街灯など、

子どもが、孤独を感じさせないような工夫が見られます。

す。さて、次は、「雨の日」です。

『アドバイス欄

——雨の日、外に——

雨の日外に出ると、とても面白いものが見られます。

例えば

●雲を見て下さい。いつ雨が降って、いつ止むか、雲を

見てあてられますか。

● 溝に、木の葉をうかべて下さい。

● どんな道をたどって、水が流れるか見て下さい。

● 雨だれが、水たまりではねかえるのを見せて下さい。

また、もし雨が止んだら、子どもに、水たまりの中に、自分の姿をうつすように導いて下さい。

● もし太陽が姿を見せたら、太陽に背を向けて立って、空を見て下さい。虹が見えますか。そして子どもに、

雨が上がると、すべての物の臭いが違ってくるのを、気づかせて下さい。町の臭いも変わっています。

——雨の日、家の中で——

子どもの中には、おもちゃを持ちすぎている子がいます。その中のいくつかは、ふだん使わずに、雨の日にだけ使うようにしてはどうでしょう。

さて、一日中家の中にこもっている子どもには、エネルギーを発散させる機会が必要です。そのためのアイデアとして、

● 家具、古い毛布、シーツを使って家を作る。

● レコードやテープをかけて、ダンスをする。

● 古いバンテリーストッキングを使ってボールを作る。

足の所をまるめて、丸い形を作るようにする。投げ合っても家具は傷つかないし、安全。

● いつもより手のこんだ方法で、絵を描く。例えば野菜を使ったり、大きな紙をバスルームの壁に張って、壁画風に絵を描く。あるいは、ガラス窓や鏡に描くのもいい。

● アクセサリー作り。マカロニに糸を通してネックレスを作る。ストローを切って糸でつなげブレスレット。

アクセサリーができれば、うんとドレスアップをして……。

雨の日は、大人でも気分がブルーになってしまいがちです。まして、子どもにとって、思い切り体を動かせないのは何よりつらいこと。いくらイヤだと思っても、雨の日は必ずあります。その雨の日を、いかに楽しく、ワクワクするものにするかが考えられています。バスルームのお絵かきは、広いウエスタンスタイルの浴室だからこそできるものかもしれません。浴室に限らず、オースト

ラリアの住宅事情は、日本よりかなり良く、子どもが家の中を走りまわるスペースがあるのは、子どもにとって幸福と言えましょう。2DKの家具に囲まれた家の中を、子どもが走りまわると、大人はついイライラして、

「静かにしないで。ほこりが立つでしょ」と大きな声を出してしまいます。狭いスペースに、一度にたくさん動物をいれると、それぞれがイライラしてくる、と言われます。雨の日は、ブルーな気分の大人と子どもが、じっとして、お互いのイライラをつのらせやすい状態です。オーストラリアの子どものように、バスルームの壁いっぱい大きな絵がかけたら、どんなに気分がスツとすることでしょう。

ABC（オーストラリア放送協会）の子どものためのプレーブック、ほんの一部をご紹介します。

